

水道橋分水路（神田川）

施設概要

水道橋分水路は、河川沿いの高度利用が進み、河道拡幅による河道整備が困難であった神田川の中流部において、早期の治水安全度向上を図ることを目的として整備した4つの分水路の一つです。神田川にはこのほか、江戸川橋分水路、高田馬場分水路、お茶の水分水路の3つの分水路があります。

当分水路は、白鳥橋下流で本川から分流し水道橋下流で本川に合流するものと、船河原橋上流で本川から分流し、小石川橋で本川に合流するものに分かれています。全区間が特例都道434号線及び都道405号線（通称：外堀通り）の地下に敷設されています。

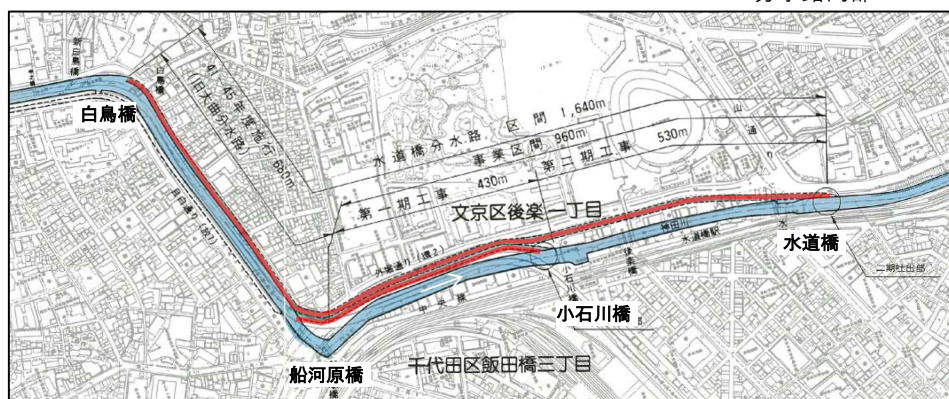
昭和41～46年度にかけて船河原橋～白鳥橋間の680mを整備（当時は大曲分水路と呼称）し、その後、昭和54～61年度にかけて、水道橋～船河原橋間の960mを整備しました。



分水路吐口



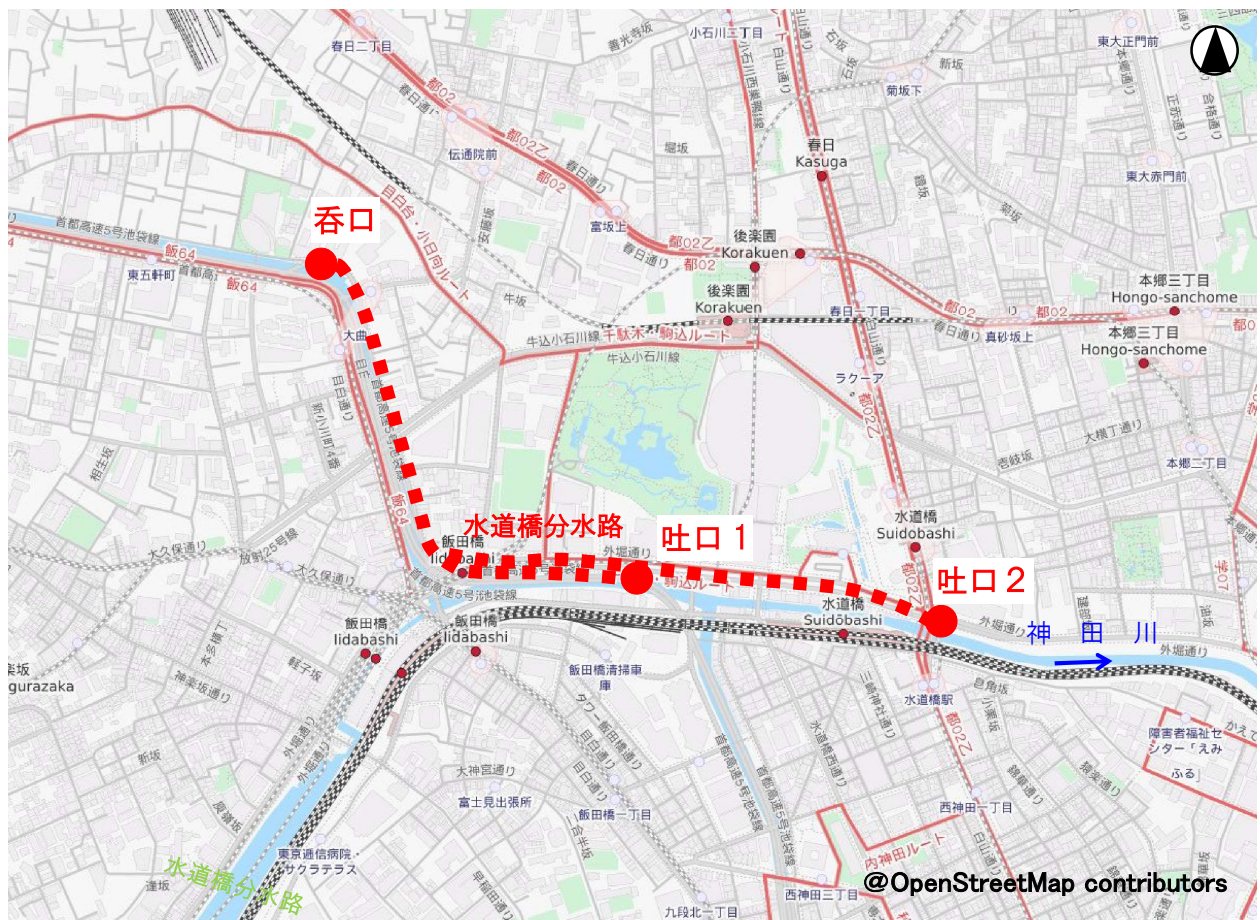
分水路内部



施設諸元

位置	文京区本郷一丁目～同区水道一丁目
完成年度	昭和46年度（第一期）、昭和61年度（第二期）
区間	水道橋下流～白鳥橋下流
延長	1,640m
断面構造 □：矩形、（横×縦：内空）	船河原橋～白鳥橋 □7.50×7.25m 小石川橋～船河原橋 □9.50×7.45m □7.70×7.45m 水道橋～小石川橋 □10.00×6.40m

位置図



●呑口位置の QR コード



●吐口位置(1)の QR コード



●吐口位置(2)の QR コード

